

xDSL/FTTH/CATV/FWAブロードバンドの最新ニュースとISP検索サイト

RBB
TODAY
http://www.rbbtoday.com/

Residential Broadband Networks 2004年9月6日 16時41分更新

IRI

OCN

ファイルスバスター-2004
インターネットセキュリティ

RBB
Soft SHOP

RBB トップ Digital Freak NAVI Slash Games speed.rbbtoday.com ダウンロード販売 セミナー情報 掲示板 自動車

プロバイダ検索

エリア別検索

郵便番号検索

- GO

2250語以上収録
IT用語の
キーワードを
探すなら

ブロードバンド
辞典

トップページ

ニュース

特集

最新ニュース一覧

前日のアクセスト
ップ5

前日のニュース一
覧

バックナンバー一覧

メールニュース購読

WEEKLY
アンケート

Q:デジカメを買うなら
予算はいくら?

- ☐ 3万円未満
- ☐ 3万円台
- ☐ 4万円台
- ☐ 5万円台
- ☐ 6万円以上8万円未満
- ☐ 8万円以上10万円未満
- ☐ 10万円以上15万円未満
- ☐ 15万円以上
- ☐ その他

投票

現在の状況

過去の結果を見る

記事検索

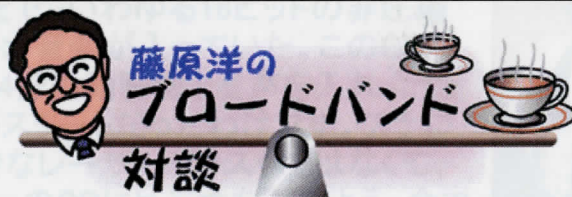
GO

光 hikari 特集

スペシャル

スピードテスト

藤原洋のブロードバンド対談



第5回 株式会社アスキー特別顧問 西 和彦氏

ブロードバンド対談第5回目のお相手は、おなじみ西和彦氏です。アスキー特別顧問、日本証券新聞社会長などを兼務しながら、複数の大学の講師として教鞭を執り、また、執筆活動も精力的にこなす西氏。先ごろ掲示板サイト **1ch.tv** を立ち上げて話題を呼んだのも記憶に新しいところです。パソコン黎明期からIT業界の最前線に立ち続けている西氏に、日本のブロードバンドの問題点に鋭く切り込んでいただくとともに、将来の可能性を展望していただきました。



西氏の事務所にて対談する西氏(右)と藤原氏(左)

MPEGの最初の提唱者の一人として、
今のDVD規格は非常に残念。DVD-Blueに期待したい

藤原 まず昔話からさせていただきますが、私と西さんで昔やったことに、MPEGという画像圧縮の標準を作ろうじゃないかということがありました。西さんが産業界の意見をまとめられて、そして国際標準化の委員で当時NTTの研究部長をされていた安田浩先生とともに、産業界と学術が一緒になって画像をデジタルにしようという動きができたの

NTT Communications

利用者の声

ブロードバンド辞典

検索したい用語を
入力して下さい

RBB NAVI

Slash Games

Digital Freak

インタビュー & 企業
訪問

コラム

レビュー

セミナー案内

オンライン販売

利用者アンケート

Weeklyアンケート

お知らせ

リリース

更新履歴

**RBB BUSINESS
TODAY SERVICES**
ブロードバンド事業者様の
加入代行受け付けています

バナー広告

問い合わせ

会社概要

プライバシーポリシ
ー

リンクについて

cbook24.com
パソコン本の特急宅配便

本サイトの内容は、
著作権による保護を
受けています。

Copyright (c) 1998-
2004 Internet
Research Institute,
Inc. All Rights
Reserved.

が、確か1980年代後半だったと思います。西さんが提唱したMPEGがですね、いま、ブロードバンドになってインターネットと何らかの関係ができつつあると思うのですけれども、過去を振り返られて、今のブロードバンド時代をどんなふうに見ておられるのでしょうか。

西 MPEGの一番初めのコンセプトは何かというと、CD-ROMが当時74分の1.5Mbpsということで、いわゆる16ビットの非圧縮のステレオ音楽が入っていた。このCD-ROMに74分の動画像と音声を入れようというのがスタートだったわけです。アナログの大きなレーザーディスクではなくて、直径12cmのCDにビデオを入れよう。今でいうビデオCDですね。これがやりたかったわけです。



株式会社アスキー
特別顧問 西和彦
氏

また、当時NTTがすでにINS1500というのを出していて、1.5Mbpsというのが通信の世界でも一つのキーワードだった。1.5Mbpsのスピードできれいな絵が送れて、きれいな音がステレオで送れるということを考えたわけです。今でいうビデオオンデマンドです。

MPEGは1.5MbpsのビデオCDの世界から、MPEG2になり、MPEG4になったりしてきましたが、我々が一番初めに考えた10何年前のMPEGのビデオCDの世界というのは、今日現在、僕は、MPEG4とDolbyデジタルという組み合わせで、ある種実現されたんじゃないかという感じがしています。ただ、この商品がないのが残念です。今はみんなDVDやっているけど、あんなことをやらないで、MPEG4とDolby AC-3のコーディングをCD-Rでやるべきだと思う。東南アジアでビデオCDが流行っていることを考えると、東南アジアのビデオCDのマーケットを殺さないで、今のパソコンでも映像の世界を取り込むことを考えたら、MPEG4とDolby AC-3っていうのが10年くらい経った後の結論じゃないかと思います。

もう一つは、MPEG1をやったときに遅れた会社、たとえばフィリップスとかソニーとかが結局DVDやろうと考えたわけです。でまあ、東芝なんかもその一つなんだけど、結局その東芝が言い始めたDVDのフォーマットに松下が乗って、最後に出井社長の大英断でソニーが乗って、ソニー、松下、東芝ということでDVDができたわけです。

で、MPEG2とDVDというのは、僕は一貫して否定してきたわけです。今はもう日本国内でDVDが2,000億円のマーケットになっているけど、なぜ否定していたかといったら、DVDはCDと違ってレーザーにグリーンレーザーを使っているからです。グリーンレーザーを使って板1枚のキャパシテ

ィが500Mバイトから5Gバイトと10倍になった。この10倍というのがどういうふうを実現したかという、エラーコネクションを変えて2倍、それからデンシティを変えて2倍、その他いろいろすることで10倍にしたわけだけど、これは、東芝がフライングをして、DVDにグリーンレーザーを使ってしまったんです。

DVDが何をすべきであったかという、今のBSデジタル放送のハイディフィニッション。MPEGのHL(ハイレベル)のプロファイルですね。24Mbpsで映像をコーディングして、それをプレイヤーでNTSCにもPALにもSECAMにもダウンコンバートする。でもディスク上のフォーマットは、日本のデジタル放送とAACというあの組合せで板を作るべきではなかったか。そうすると、日本のデジタル放送とAACのフォーマットが世界の標準になり得る可能性があったわけです。

これをつぶしたのは東芝の「ある種の犯罪」だと思っている。東芝の犯罪に松下が荷担して、最後まで突っ張ってほしかったソニーもとうとう荷担してしまったというのは僕一人の憤りではないはずです。それが僕には悔やんでも悔やみきれないことだと思っているんです。

だから、今みんなが見ているMPEG2のDVDは、みんなきれいと言っているけれども、「MPEG2のDVDの映像がきれいなのか、ふざけんなよ!」と言いたくなる。DVD見ているときにね、ときどきおかしいと思うことがあります。BSデジタルのMPEG2のHL、これはね、ブルーレーザーを使ったら実現できるんです。だからDVR-Blue、今いろいろな展示会でパイオニアとかが出展していますが、DVD-Blueというのがこれから非常に大きな意味をもつ商品になるんじゃないかと信じています。

まあ、DVDが2,000億の商売になってしまったから、それに水を差すのはなんだけれども、本当のことって、やっぱりビデオCDをもう一回仕切り直しして、MPEG4のビデオCDと、MPEG-2 AACのデジタル放送と同じフォーマットのDVD-Blue、この2つに落ち着いてくれたらいいなあと思っています。

藤原 お話をお伺いしていますと、MPEGのオリジネーターの一人として、西さんの発言には映像とオーディオに対するたいへんなこだわりを感じます。さて、これまで主にパッケージメディアの歴史を振り返っていただいて、今後こうあるべしというサジェッションもしていただいたわけですが、今度はブロードバンドのネットワークについてお聞きしたいと思います。

DSLとかケーブルテレビ、それからFTTHというのが少し出始めているわけですが、今後のブロードバンドというのは西さんから見て、どのように展開をされるとお考えでしょう

か。

加入者線をISDNにしたのはNTTの失敗。
万人が必要とするサービスを提供しないと、
インフラは育たない。本命は8MのADSL



株式会社インターネット総合研究所所長
藤原 洋氏

西「NTTが犯した最大の商品化の失敗」というか間違った技術的判断があったと思うんです。NTTの悲願である「全国即時ダイヤル通話」というのを実現したときに、次の目標は「デジタル化」だとなった。光ファイバでバックボーンが無限大にも近いキャパシティになったときに、メーカーが考えるロジックは2つあって、1. 生産コストを安くすることと、2. 販売価格を上げることだったと思うんです。

北原安定電電公社副総裁のINSの発想の背後には、電話網のデジタル化というのがあったわけですが、このデジタル化は半分成功して半分失敗したと思うんです。成功した部分は、バックボーンを全部デジタル化することによって、通信コストを極限まで安くしようということ。これは正しかった。

もう一つの加入者線のデジタル化は、これによって値上げしようというのがNTTの発想だったと思う。INSが2B+Dというのはなぜ2Bなのか。なぜBじゃなくて2Bなのか。あの2Bというのはエンジニアの夢であるテレビ電話だということではなかったのでしょうか。つまり1Bは音声で、もう一つのBが映像。で、音声の電話でつなぐときには値段は従来と同じで、映像が入ったら2倍にする。これが一番みんなにわかりやすいロジックだったと思うんです。

でもね、INSのビジネスがどうだったか。つまり、電話はデジタルになる必要があったのか。バックボーンはコストを安くするために必要性があった。でも加入者線はデジタルになる必要はなかったんです。これが、電話のエンジニアが犯した最大のミスであると僕は信じているんです。

電話の本質とは何だったのか。電話とは映像を送るネットワークではなく、いわんや音声を送るネットワークでもない。電話のネットワークとは実は「言葉を送るネットワーク」だったのです。ファクシミリと電話の共通性、それは言葉を送るネットワークだということです。NTTというのは音を送る会社ではなく、音でも文字でもなんでもいいから、とにかく「言葉を送る会社」なんです。それをね、日本が日本語圏という一つの言語圏にあるからか、NTTは言葉を送るビジネスだということをただ認識していなかっただけという感じが僕にはするんです。

INSがインターネットのアクセスサービスとして認知されるまでは、こんな失敗をして「いったい(Ittai)、なにを(Nanio)、するのか(Surunoka)」とみんな自嘲的に言っていたんです。それでINS(笑)。万人が必要とするサービスを提供することなしに、インフラというのは絶対離陸しないんです。

じゃあ加入者線のデジタル化というのはなんのためにあるべきなのか。それは絶対INSではない。すでに投資された銅線をデジタル化するという唯一のジャスティフィケーションは、電話ではなくインターネットではないでしょうか。だからINSはINS本来の使い方ではなく、低速のデジタル伝送をするインターネットのアクセス線として売れたわけです。

でもね、INSをインターネットのアクセス線として売るのは、これは、僕は犯罪だと思うんです。128kbpsでインターネットにアクセスしていいのかっていう話。128kbpsというのは非常に中途半端なスピードなんです。

ではどのくらいのスピードが必要なのか。一つは1.5Mbps、これは何かといったらCDのスピードですね。もう一つは24Mbpsだと思う。24Mbpsに関しては、これは光ファイバしかできないハイエンドのサービスです。そうすると加入者線のデジタル化で考えられるのは、ADSLで1.5Mbpsを完全保証するというサービス。それからDVDと競争できるスピードは6~8Mbpsですから、ADSLで8Mbpsを保証するサービス、この2つが出てくるのではないのでしょうか。

8Mbpsを保証するということは、そのサービスを提供する会社もっているバックボーンのスループットがユーザチャンネルごとに8Mbps完全にあるのか、そこが肝心です。サーバから加入者線まで、100%効率的にネットで8Mbps通るかどうかのネットワークをどのISPが最初に作るかということが、ユーザにとっても重要なところでしょう。

では、そこに何を乗せるのかというコンテンツの議論になると思います。ブロードバンドのコンテンツに限らず、コンテンツには6種類あって、それが2つのカテゴリに分かれる。

一つはニュースというカテゴリ、これには「ニュース」と「スポーツ」が入る。

一つはオールズというカテゴリ。これには4つあって、「コミック」と「音楽」と「映画」と「ゲーム」がある。

で、オールドソフトは全部、実はエンタテインメント。この中でブロードバンドにすぐ乗るのは何か？ 一番初めは音楽です。2番目は映画です。で、それを一番豊富にもってい

るのはラジオ局でありテレビ局である。つまり現行のラジオ放送、テレビ放送をブロードバンドにいかに乗せるのかが直ちに我々が取り組まなければならない大きなテーマです。

ではラジオ放送、テレビ放送の一番大きなコンテンツは何かといったら、過去に放送された番組の蓄積、「アーカイブ」ですね。これがブロードバンドにどう乗るのかというのが一番大きなテーマになると思う。

これに対して残念ながらテレビ業界は大反対なんです。なぜか。過去のテレビ番組を見るということは、テレビ番組の中に挟まれているコマーシャルも、過去のコマーシャルを見ることになるからこれは困るんです。NHKのテレビ視聴の統計を見ると、だいたい国民は1日4時間半から5時間半テレビを見るわけ。何でそんなに見るのって感じになるけど、それだけ国民がテレビを見てくれて、コマーシャルを見てくれたら民放はいいんだけど、その半分が過去の番組になったら困るんです。

コンテンツとしては過去のラジオの放送、過去のテレビの放送がまず出てくるのではないか。それから映画とかCDの音楽というものが、ブロードバンドのコンテンツとして立ち上がるのではないか。そういう万人が必要とするサービスを提供しない限り、ブロードバンドインフラは絶対に離陸しないと思うんです。

現在のページ(1/3)

[次のページ\(2/3\) >>>](#)
